（別紙様式）

令和５年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

茅ヶ崎市立東海岸小学校

研究テーマ：自他ともに認められる子を育てる

～子どもが道徳的価値の見方を広げ、自己の生き方について理解を深める授業づくり～

１　実践の目的

学校は、学力と社会性を同時に育てる場であり、この２つが両輪となって成長へのよりよい働きかけができると考える。コロナの影響で子どもたちの関わり合いが減り自分自身や所属集団との折り合いがつけられず苦戦する子どもたちも見受けられる。

子どもたちが、「明日を楽しみにし、自分の未来をよりよく切り開いていける」ために日々の実践を見直し、よりよい指導を目指して授業改善をするために校内研究・研修を行う。

２　実践の内容

（１）　校内研究の体制

子どもたちが、自ら自己肯定感を感じ、クラスメイトとお互いのよさを認め合うためには、教師の手立てが必要となる。

その手立ての１つが、授業と学級経営であると考える。

そのために校内研究では　「①特別の教科道徳」、校内研修では「②学級経営」について、研究・研修を行ってきた。

（２）　校内研修会の様子

校内学級経営研修では、校内の教員が順番に各分野の講演を行った。例えば、「学級開きの方法」や「学級通信の書き方」、「保健室運営の工夫や手立て」などについてである。普段中々聞くことができない内容の研修を行った。そのため、多くの先生方のニーズに沿った研修により各職員が主体的に取り組む様子がみられた。

３　実践の成果

（１）　教師の変容

特別の教科　道徳は、国語科とは違い、教科書教材（価値理解）で完結せず、自己の生き方につながるよう工夫しなければならない。つまり、物語から抜けだすための手立てが必要になる。校内研究の当初は、授業そのものが、教科書のみの交流で終わってしまうこともあった。しかし、協議会やブロック研究、講師の先生の助言などをもとに、対話を重ねることで、各教師の持っている授業観を少しずつ変化させるきっかけが増えてきた。「子どもの日常に戻る」道徳授業の具現化（わかっているけど、できないのはなぜ？）を目指してきた。

また、校内研究のテーマ「自他共に認め合う子を育てる」を目標に取り組んできた。研

究授業では、授業での実際の子どもの姿を大切にしながら協議を行った。

なによりも協議の柱に沿った参観者の視点は、児童の見取りが的確であり、なぜ子どもがそのような意見をもったのか？という部分まで迫ることができるようになった。

その結果、多くの学年で自分も友だちも大切にする姿がみられた。ワークシートには、友だちの発言から気が付いたことが書けるようになったり、友だちと自分の考えを比較したりするなどの変容がみられた。また、板書から気付きが生まれ、お互いの価値の共有・比較・体験から考える自己理解など学びが深まる様子もみられた。

４　今後の展開

（１）今後の研究の方向性

次年度の校内研究でも「①特別の教科道徳」を行い、校内研修で「②学級経営」について、引き続き研修・研究を行っていく。

「①特別の教科　道徳」

・教材研究について

授業準備では、ブロック研究を主として教材研究を行っていく。学年だけでなく、ブロックで研究することで多くの見方や幅広い価値観などが共有され、教材研究の深まりが生まれると考える。また、授業者の責任過多にならないよう、ワークシートや教具などの具体物は、学年が協力して準備をしていく。

・研究授業・協議会について

研究授業では、全クラスの担任が事前、もしくは事後に公開授業を行っていく。学年全員が授業をすることで、教師自身が自分ごとになり、より「自他共に認め合う子を育てる」視点に立った研究が行われると考える。協議会では、職員全員が課題意識をもち個々の授業観や教材観、児童感を共有し合える場とする。

そのためには、指導案（形式）や協議会（形式・議題の柱）授業学年による事前の情報提供は欠かせない。

「②学級経営」

４月には、職員が入れ替わるため方向性や考え方の違いに気づかされることが予想される。大規模校ならではの多様な考えや価値観がある強みを生かしていきたい。そして、多くの先生方に講師となっていただき、各先生が持っている持ち味（知識や教育技術・児童理解）の共有も含め開かれた学級経営を学校全体で行っていく。

（２）課題への対応

校内研究のサブテーマは、「道徳的な見方を広げ、自己の生き方について理解を深める授業づくり」である。１２月に行われた研究全体会では、「自己の生き方について理解を深める」の部分の評価の仕方に悩んでいると話があった。研究部では、講師の先生との話し合いから「振り返り」の中に固有名があることで自己の生き方につながり評価できると考えた。研究部が中心となり、学年会やブロック研究、研究通信などで「評価」も含め「参観の視点」「授業観」「教材観」についても発信していく。

また、学校としての系統的な指導（１年から６年まで）の共通指導（話す・聴く）も継続しながら各教科でより一層の指導の充実が図れるように率先して働きかけしていきたい。